

一六
南
鮮
方
面
部
隊

第十二野戦輸送司令部 (築第七五六二部隊)

年 月 日	略 歴
昭和一八 八 一九	軍令により第十二野戦輸送司令部編成下令
八 三〇	編成完結(牡丹江)
九 七	黒河省孫呉に移駐、第四軍の隷下に入る
一九 一 一八	山神府に移駐同地区の警備に従事
二〇 四 一六	北安省北安に移駐、同地区の警備に従事
六 二 一	第十七方面軍の戦斗序列に入る
七 四	北安出発
七 五	鮮満国援通過
七 七	朝鮮全羅北道全州着
八 一 五	朝鮮司令部の隷下に入る
八 二 五	停戦
九 九	京城に移駐
一〇 三	大田に移駐 内地帰還のため釜山港出帆

	昭和
	一〇
	四
	舞鶴港上陸
	復員完結

0310

0313

独立輜重第六十四中隊 (築第七〇〇三部隊)

年	月	日	略	歴
昭和	一六	七		軍令により独立輜重第六十四中隊編成下令
	一六	八	編成完結(熊本)	
		八	熊本出発	
		八	門司港出帆	
		八	釜山港上陸	
		八	釜山出発	
		八	鮮満国境通過	
		八	満洲牡丹江省東寧県壯西着、同日より同地附近の警備	
		九	東寧県老黒山に移駐	
			爾後同地附近の警備並に輸送業務に従事	
	二〇	五	作戦命令により老黒山出発	
		五	鮮満国境通過	
		五	朝鮮全羅北道大田市に移駐	
		六	第百五十師団長の指揮下に編入せられ部隊主力全羅北道井邑に移動し同地周辺に陣	

八	一五	地構築中の同師団隷下部隊の資材糧秣等の輸送補給業務に従事
九	二	終戦
一〇	一一	内地帰還のため部隊主力井邑出發
一〇	一五	仙崎上陸
一〇	一七	復員完結
<p>(注) 残置部隊は十二月二十四日井邑を出發十一月十二日博多港上陸復員せり</p>		

第六十二兵站地区隊本部 (築第七〇二三部隊)

年	月	日	略	歴
昭和一六	七	三〇	関特演の動員により第六十二兵站地区隊本部編成完結(鹿兒島西部十八部隊において)	
	八	二〇	満洲派遣のため鹿兒島出発	
	八	二二	門司港出帆	
	八	二五	釜山港上陸	
	八	二八	鮮満国境安東通過	
	八	三〇	満洲国滨江省哈爾浜市到着、関東軍補給監部の隷下に入る	
	一六	一二	滨江省葦子溝移駐同地附近警備	
	一九	六	移駐のため葦子溝出発	
	同	日	新京孟家屯兵器廠構内に移駐同地附近の警備	
	二〇	六	第十七方面軍司令官の隷下に入る	
	七	一	移駐のため孟家屯出発	
	七	二	鮮満国境安東通過	
	七	三	朝鮮慶尙北道大邱着	

建築勤務第五九中隊 (築第七〇四三部隊)

昭和	年	月	日	略	歴
一六	七	三	一	編成完結(鹿兒島)	軍令により建築勤務第五十九中隊臨時編成下令
	八	一	五	鹿兒島出發	
	八	一	七	門司港出帆	
	八	二	〇	大連港上陸	
	八	二	一	関東州界通過	
	八	二	五	満洲国東安省虎林省	
				爾後同地附近の警備並に東満国境附近の兵舎の建築勤務に従事	
二〇	六	二	八	牡丹江省林口県林口に移駐	
	六	二	八	第十七方面軍司令官の隷下に入る	
	七	七	九	部隊移駐のため林口出發	
	七	一	〇	満鮮国境通過	
	七	一	三	朝鮮忠清南道大田着	
	八	一	五	停戦	

		昭和二〇
		九
	一〇	八
	一〇	九
同日	一〇	二
復員完結	博多港上陸	終戦
		内地帰還のため大田出発
		釜山港出帆

第四十一警備大隊 (築第一〇二八八部隊)	
年 月 日	略 歴
昭和一九三三	軍令により第四十一警備大隊編成下令
三一七	編成完結(京都)
四一七	門司港出帆
四一八	釜山港上陸
同日	釜山府西面着
	爾後釜山要塞司令官の指揮下に入り同地附近の警備に従事
二〇八二五	停戦
九二二	終戦
九二六	内地帰還のため釜山港出帆
九二七	博多港上陸
九二八	復員完結

釜山要塞重砲連隊 (築第七四〇〇部隊)

年月日	略歴
昭和二六 七 一〇	軍令により鎮海湾要塞重砲連隊編成下令
七 二四	編成完結(馬山)
七 二四	同日より鎮海湾要塞司令官の隷下に入る 馬山出發同日釜山着
一一 一四	爾後釜山に在りて準戦備勤務に従事す
一一 二〇	軍令陸甲第八一号に依り編成改正下令 編成改正完結
一七 六 二七	軍令陸甲第四十七号に依り釜山要塞重砲連隊と改称 爾後朝鮮南部の警備に任ず
二〇 八 一五	停戦
一九 九 二	終戦
一九 三 〇	内地帰還のため釜山港出帆
一〇 一 一	博多港上陸
同日	復員完結

		昭和二〇		略	歴
		年	月		
		七	七	編成完結（京城）	軍令により歩兵第三六一連隊臨時編成下令
		七	二三	爾後第三二〇師団司令官の隷下に入り竜山に在りて同地附近の警備に任ず	
		八	一五	停戦	
		九	二	終戦	
		一〇	一一	内地帰還のため釜山港出帆	
		一〇	一二	博多港上陸	
		一〇	一三	復員完結	

歩兵第三六一連隊 (宜武第二九一〇二部隊)

釜山要塞司令部		略歴
年月日		
昭和一六 七 一〇		軍令により鎮海湾要塞司令部編成下令
八 一〇		編成完結（鎮海）
一六 八 一一		要塞司令部所在地を釜山府に移転し釜山要塞司令部と改称す
二〇 八 一五		爾後朝鮮南部の警備に従事す
九 二		停戦
一〇 一五		内地帰還のため釜山港出帆
一〇 一六		博多港上陸
一〇 一七		復員完結

特設警備第四〇五中隊 (第八八二三部隊)

年月日	略歴
昭和一八 八 一三	特設警備第四〇五中隊編成完結(京城)
一八 九 二二	京城出發麗水要塞司令官の隷下に入る
九 二二	木浦港出帆
九 二三	朝鮮全羅南道済州島上陸
二〇 七 一〇	爾後済州島の沿岸警備に従事 済州島内に於ける遊撃戦実施のため警備召集者十名及島内駐屯各部隊より将校四、 下士官一二、兵九六、計一二二名を編入し、部隊名を第五部隊と改称し第五十八 軍の指揮下に入る
二〇 八 一五	停戦
八 一七	警備召集者を済州島に於て召集解除
八 二〇	各兵団より編入者を原所屬に復歸せしむ
八 三〇	常置員現地召集解除

第二百一十一師団衛生隊 (栄光第一三九一二部隊)

年	月	日	略	歴
昭和二〇	六	一五	軍令により第二百一十一師団衛生隊編成下令	
	六	二〇	編成完結(満洲国哈爾浜)	
	六	二二	哈爾浜出發	
	六	二四	鮮満国境安東通過	
	六	二五	朝鮮麗水着	
	六	二八	麗水港出帆	
	七	二	濟州島上陸	
			爾後同島の防衛に従事	
	八	一五	停戦	
	九	二	終戦	
	二	二五	復員下令	
	一〇	二八	内地帰還のため濟州島出發	
	一〇	三一	佐世保港上陸	
	一一	一	復員完結	

昭和二〇		年	月	日	略	歴
六	一五				第百二十一師団第四野戦病院編成下令	
六	二〇				編成完結（満州国哈爾浜）	
六	二三				哈爾浜出發	
六	二五				鮮満国境安東通過	
六	二六				朝鮮麗水着	
七	一				麗水港出帆	
七	三				濟州島上陸	
					爾後同島の防衛に従事	
八	一五				停戦	
九	二				終戦	
一〇	二八				内地帰還のため濟州島出發	
一〇	三〇				佐世保港上陸	
一〇	三一				復員完結	

第百二十一師団第四野戦病院
（栄光第一三九一五部隊）

第一五〇師団噴進砲隊 (護朝第二八二四六部隊)

年月日	略歴
昭和二〇 六一六	第一五〇師団噴進砲隊基幹要員編成開始
六二〇	編成完結(京都)
七二	屯営出発
七八	新潟港出帆
七一四	雄基上陸
七一八	井邑着
七六	初年兵入隊編成開始
七一〇	編成完結
七六	京都出発
七二〇	博多港出帆
七二六	蔚山上陸
七二八	井邑着

右の如く部隊は二回の編成に依り組成され終戦直前朝鮮に派遣さる兵器受領のため将校以下六十二名京都に残留す

昭和二〇

八一四

停戦

九二

終戦

一〇一一

内地帰還のため井邑出発

一〇一六

仙崎港上陸

一〇一六

復員完結

(註) 渡鮮せざる残留人員は八月二十三日附を以つて京都師管区砲兵補充隊に転

属せしめられ九月七日を以つて復員完了す

第二鉄道材料廠 (路第五八〇七部隊)

年 月 日	略 歴
昭和一六 七 一六	軍令により第二鉄道材料廠編成下令
一六 七 二〇	編成完結(津田沼)
七 三〇	神戸港出帆
八 四	大連港上陸
八 六	大連出発
八 八	牡丹江省牡丹江着
八 二九	浜江省哈爾濱着、第一鉄道監の指揮下に入る
九 一	本隊はソ満国境鉄道資材整備のため山神府牡丹江方向に移駐
一七 二 下旬	哈爾濱に帰還爾後関東軍鉄道作戦、兵器の整備補給に従事
六 中旬	本隊中支方面に派遣(蘇州方面)
一八 一 下旬	本隊哈爾濱に帰還
二〇 五 上旬	朝鮮派遣のため哈爾濱出発
五 上旬	朝鮮京城(清里)着爾後同地に於て鉄道材料の整備補給に従事
二〇 八 一五	停戦

九二	終戦
九二八	終戦後大田に移動残務整理 内地帰還のため釜山港出帆
九三〇	博多港上陸
九三〇	復員完結

第四〇五特設警備工兵隊 (朝鮮第七四四七部隊)

年月日	略歴
昭和一九九三〇	軍令により第四〇五特設警備工兵隊編成下令
一〇二	編成完結(群山)
一〇一二	朝鮮全羅北道群山府大和町に部隊本部を設置光州師管区司令官の隷下に入る
二〇八一五	爾後群山府郊外西方飛行場附近の警備
二〇八二〇	停戦
九三〇	召集要員を解除 現地復員完結

特設警備第四五八大隊 (朝鮮第七四八〇部隊)

年 月 日	略 歴
昭和一九 一九二九	軍令により特設警備第四五八大隊編成下令 編成完結(京城)
二〇 八一五	京城地区司令官の指揮下に入り京城地区の警備に従事す 停戦
九 九二	終戦
八 八二一	現地(仁川)において召集解除 (注)要員は主として朝鮮在住の在郷軍人を充当した

京城地区司令部

年月日	略歴
昭和二〇 四 二八	軍令により京城地区司令部編成完結（京城陸軍兵事部を改編）
五 二〇	京城地区司令官の指揮下に入りたる特設警備大隊次の通り 特設警備第四五五大隊
	“ 第四五六大隊
	“ 第四五七大隊
	“ 第四五八大隊
	爾後京畿道一円の警備に任ず
八 一五	停戦
九 二二	終戦
一〇 一一	内地帰還のため仁川港出帆
一〇 一四	佐世保港上陸
一〇 一四	復員完結

大邱地区司令部

年 月 日	略 歴
昭和二〇 四 二八	軍令により大邱地区司令部編成完結（大邱陸軍兵事部を改編）
二〇 五	大邱師管区司令官の隷下に入る
八 一五	爾後慶尙北道管内の警備
九 二	停戦
二〇 一〇 六	内地帰還のため釜山港出帆
一〇 一〇 八	仙崎港上陸
一〇 一〇 八	復員完結

0330

-343-

0334

釜山地区憲兵隊

年月日	略歴
昭和一九八二 九一六	軍令陸乙第四十三号により大邱憲兵隊を釜山憲兵隊と改称 朝鮮慶尙北道大邱より慶尙南道釜山に移駐慶尙南道を管轄し釜山、蔚山、鎮海、晋州等に分隊を置く
二〇 三 一六	軍令陸甲第四十六号により釜山地区憲兵隊臨時編成完結 爾後釜山地区の警備に従事
二〇 八 一五	停戦
九 二〇	慶尙南道勿禁に移駐
九 二八	忠清南道大田に移駐
一〇 二三	内地帰還のため釜山港出帆
一〇 二三	復員完結

第一五九警備大隊 (朝鮮第七〇六〇部隊)

昭和二〇	年月日	略	歴
二	三 五	編成完結	軍令陸甲第二十一号により第一五九警備大隊編成下令(都城)
三	二〇	官崎泉都城出發	
三	二四	門司港出帆	
三	二五	釜山港上陸	
三	二六	釜山出發	
三	二八	朝鮮全羅南道順天邑到着	
		爾後全羅線及慶全西部線鐵道警備	
	八 一五	停 戦	
	九 二	終 戦	
一	一 三	内地帰還のため釜山港出帆	
一	一 四	博多港上陸	
一	一 四	復員完結	

年 月 日	略 歴
昭和二〇 三 三	軍令により第一四九警備大隊編成下令
三 三	編成完結（姫路、中部第四六部隊）
三 二〇	宇品港出帆
三 二四	釜山港上陸
三 二七	京城着
八 一五	京城師管内司令官の隷下に入る 爾後京元線、京慶線の鉄道警備 停戦
九 三〇	以後京城府内の治安維持並に警備 内地帰還のため釜山出帆
一〇 一	博多港上陸
一〇 一	復員完結

第一四九警備大隊（朝鮮第七六二〇部隊）

第一五六警備大隊（朝鮮第二五〇六八部隊）

年・月・日	略	歴
昭和二〇 二 二二	軍令により第一五六警備大隊編成下令	
二 二七	編成完結（島根県、浜田）	
三 二〇	屯営出発	
三 二五	門司港出帆	
三 二六	釜山上陸、大邱師管区司令官の隷下に入る	
三 二七	大邱府着	
八 一五	爾後大邱附近の鉄道警備	
九 二	終戦	
一〇 一五	内地帰還のため大邱発	
一〇 一	釜山港出帆	
一〇 一三	博多港上陸	
一〇 一三	復員完結	

第百六十九停車場司令部 (路第二〇〇四部隊)

年	月	日	略	歴
昭和	一六	七		軍令により第百六十九停車場司令部編成下令
	一六	七	二〇	編成完結(京城)
	一八	一〇	一〇	爾後龍山停車場司令部に在りて輸送業務に従事す
	一〇	一一		移駐のため龍山出発
				釜山 着
	一九	一二	二	爾後釜山に在りて関特編による南方派遣業務に従事す
	同	日		昭和十九年軍令陸甲第一六三号に依り関東軍野戦鉄道隊は大陸鉄道隊と改編
	二〇	四	一八	大陸鉄道司令官の隷下に入る
	同	日		軍令陸甲第四三号により朝鮮鉄道隊臨時編成せらる
	八	一五		第五鉄道監の隷下に入る
				停戦
	一〇	一六		爾後釜山に在りて部隊並に邦人の内地引上輸送業務に従事す
	一〇	一七		内地帰還のため釜山港出帆
	一〇	一七		博多港上陸
	一〇	一七		復員完結

第一六〇警備大隊 (朝鮮第七〇六一部隊)

年 月 日	略 歴
昭和二〇 二	軍令により第一六〇警備大隊編成下令
三 一	編成完結(鹿兒島)
三 二〇	門司港出帆
三 二一	朝鮮釜山港上陸
三 三〇	全羅北道群山到着待機
四 二〇	光州師管区司令官の隷下に入る 爾後大田―木浦間の鉄道警備
八 一五	停戦
九 二	終戦
一 三	釜山港出帆
一 四	博多港上陸
一 四	復員完結

京城陸軍兵事部

年	月	日	略	歴
昭和	一四	四	一	軍令により京城陸軍兵事部編成下令
		八	一三	編成完結(京城)
	一九	四	一	爾後京城師管区司令官の隷下に入り朝鮮在住日本人の兵事業務に従事
	二〇	四	一	春川、忠州兵事部新設に伴ひ京畿道のみ管轄す
	二〇	八	一五	京城陸軍兵事部兼京城陸軍地区司令部となり京畿道の警備を担当す
		九	二	停戦
		一〇	一三	内地帰還のため仁川港出帆
		一〇	一四	佐世保港上陸
		一〇	一四	復員完結

第七一兵站病院 (築第一三六五部隊)

年	月	日	略	歴			
昭和	一六	七	八	三	軍令により第七一兵站病院編成下令		
			八	一六	編成完結(仙台第一陸軍病院)		
			八	二〇	仙台出発		
					大連港上陸		
					爾後満州奉天、開原、鉄嶺、金州、柳樹屯に於て傷病者の診療に従事		
			二〇	七	七	五	関東州柳樹屯出発
			七	七	七	七	京城到着朝鮮軍司令官の隷下に入る
			七	二	五	中清南道論山に駐屯傷病者の診療に従事	
			八	一	五	停戦	
			九	一	二	終戦	
			九	一	〇	論山出発同日釜山着	
			九	二	九	内地帰還のため釜山港出帆	
			九	三	〇	仙崎港に上陸	
			一〇	一	一	復員完結	

京城師管区通信補充隊 (朝鮮第二二九部隊)

年	月	日	略	歴
昭和二〇	二	二八	軍令陸甲第三四号により第二〇師団通信隊補充隊復員並に京城師管区通信隊補充隊臨時動員下令	
二〇	四	七	復員並に臨時編成完結(京城)	
二〇	八	一五	爾後京城市に在り通信業務、警備に従事	
	九	二	停戦	
二〇	一〇	一一	内地帰還のため仁川港出帆	
	一〇	一三	佐世保港上陸	
	一〇	一五	復員完結	

京城師管区工兵補充隊 (朝鮮第二三七部隊)

年月日	略歴
昭和二〇 二 二八	軍令陸甲第三四号により工兵第二十連隊補充隊復員並に京城師管区工兵補充隊臨時動員下令
二〇 四 七	復員並に臨時編成完結(京城) 爾後工兵補充隊員の教育、警備等に從事
二〇 八 一五	停戦
二〇 九 二	終戦
二〇 一〇 一一	内地帰還のため仁川港出帆
二〇 一〇 一三	佐世保港上陸
二〇 一〇 一五	復員完結

特設警備第四五六大隊 (朝鮮第七四七八部隊)

年 月 日	略 歴
昭和一九一	軍令により特設警備第四五六大隊編下令
一九二九	編成完結(京城)
二〇八	京城地区司令官の指揮下に入り、南地区(竜山区、永登浦地区)の警備に従事す
二〇八	停戦
二〇八	現地(京城)において召集解除
二〇八	(注) 要員は主として朝鮮在住の在郷軍人を充当した

特設警備第四五五大隊 (朝鮮第七七七部隊)

年 月 日	略 歴 歴
昭和一九二一	特設警備第四五五大隊編成下令
二九	編成完結(京城)
同日	京城地区司令官の指揮下に入り京城地区の警備に従事す
二〇 八一五	停戦
八二一	現地召集解除(復員)
(注) 要員は主として朝鮮在住の在郷軍人を充当した	

大田地区司令部

年月日

略

歴

昭和二〇

四

四

四二八

軍令により大田地区司令部編成下令

編成完結（大田）

爾後朝鮮忠清南道大田府に在りて忠清南道全域の警備並に道内の情報蒐集警察、民間団体の指導道内各部隊に対する物資の配分補給等に任ず

停戦

終戦

米軍上陸

司令部解散

内地帰還のため釜山港出帆

佐世保港上陸

復員完結

一〇二二

一〇二三

一〇二〇

九一七

九一七

九二二

八一五

特設陸上勤務第百六中隊 (朝鮮第八八七九部隊)

年 月 日	略 歴
昭和一九一三	軍令により特設陸上勤務第一〇六中隊編成下令
一一一四	編成完結(京城)
一一一七	屯営出発
一一一九	釜山着
二〇九四	爾後(朝鮮軍直部隊なる)釜山輸送統制司令官の指揮下に入り釜山埠頭の輸送業務に服す 現地に於て召集解除

第七十六停車場司令部 (路第三八五八部隊)

昭和二〇	年月日	略歴
二	二六	軍令により第一七六停車場司令部編成下令
二	二六	編成完結(東京)
二	二七	東京出発
二	二八	門司港出帆
二	二八	釜山港上陸
二	二〇	南鮮忠清南道大田市着
七	七一	移駐のため大田出発
七	七二	金羅南道順天に到着(順天市司令部設置)
		終戦まで南鮮鉄道の輸送業務に従事
八	八一五	停戦
九	九二	終戦
一〇	一〇	内地帰還のため順天出発
一〇	一五	釜山出帆
一〇	一六	博多港上陸
一〇	一八	復員完結

第一三七停車場司令部 (路第七二二一部隊)

年	月	日	略	歴
昭和	一六	七	一四	軍令により第一三七停車場司令部編成下令
		七	一六	編成完結(山口)
		七	一七	門司港出帆
		七	一七	釜山港上陸
		七	一九	鮮満国境函門通過
		七	二〇	満州国牡丹江省野戦鉄道司令部牡丹江支部の隸下に入る
		七	二〇	東安省雞寧駅着同所に於て即日雞寧停車場司令部開設部隊並に軍需品の輸送業務に従事
		七	二一	林口駅に支部開設輸送並に部隊給与に当る
		二	二一	平陽駅に支部開設滞貨処理に当る
		二	三	釜山駅着同駅に於て停車場司令部業務に従事
		七	一	部隊移駐のため釜山駅発
		七	一	大田駅着同駅に於て停車場司令部開設

1380

-359-

0350

第一六〇警備大隊 (朝鮮第七〇六一部隊)

年	月	日	略	歴
昭和二〇	二	六	軍令陸甲第二十一号に依り第一六〇警備大隊動員下令	
	三	五	編成完結(鹿兒島)	
	三	二〇	鹿兒島出発	
	三	二五	下関港出帆	
	三	二六	釜山港上陸	
	三	二八	朝鮮全羅北道群山着	
	四	一〇	光州師管区司令官の隷下に入る	
	四	二二	鉄道警備訓練	
	四	三〇	群山出発	
	四	三〇	全羅北道裸里着	
	八	一五	爾後湖南線、群山線、慶全西部線の鉄道警備に従事	
	八	二	停戦	
	九	二	終戦	
	一〇	二〇	内地帰還のため釜山港出帆	

昭和二〇一〇二〇
一〇二〇
復員完結 仙崎港上陸

大田地区憲兵隊	
年月日	略歴
昭和二〇 三 一六	軍令陸甲第四六号により大田地区憲兵隊臨時編成完結（朝鮮大田）
八 一五	爾後忠清南道、海岸警備
九 二	停戦
一〇 二〇	内地帰還のため大田出発
一〇 二三	釜山港出帆
一〇 二五	仙崎港上陸
一〇 二五	復員完結

特設陸上勤務第一〇七中隊 (朝鮮第八八八〇部隊)

年	月	日	略	歴
昭和一九	一一	一一		軍令により特設陸上勤務第一〇七中隊編成下令
	一一	一三		第一次召集者入隊(竜山、搜索第二十連隊、補充隊)
	一一	一七		第一次編成完結(京城)
	一一	一八		龍山出発
	一一	一九		釜山着、釜山要塞司令官の隷下に入る
	一一	三〇		第二次召集者入隊
	一一	三		爾後埠頭地区道路構築、輸送荷役作業に従事
	三	一五		釜山鎮出発
	三	一八		羅津着、羅津要塞司令官の隷下に入る
	五	一二		同日より同地附近の警備
	五	一七		羅津出発
	八	一五		釜山着
	八	一五		釜山要塞司令官(輸送統制部長)の隷下に入る
	八	一五		爾後埠頭、船内荷役作業並に警備
	九	四		停戦
	九	四		復員完結(現地)